

## 一刻も早い復興を！そして今後の透析医療の防災対策のために

日本において、20世紀（1900年）以後の8.0Mw以上、最大震度7、死者・行方不明者1,000人以上、気象庁により命名された地震・津波は43回と非常に多い。また、世界で発生する6Mw以上の巨大地震の20%は日本で発生しており地震大国と言われている。

このため、先人たちの多くの犠牲の教訓から日本は歴史的に地震災害に強いとされてきた。しかし、平成23年3月11日14時46分頃、日本の地震観測史上最大の三陸沖を震源とした東北地方太平洋沖地震 Mw 9.0が発生し、これに伴い岩手県大船渡市で最大溯上高40.1mを記録する巨大津波が発生し、北海道から千葉県の広範囲に太平洋沿岸に渡り甚大な被害をもたらした。

さらに、福島第一原発で電源喪失事故が発生し、広範囲な放射能汚染事故となり、原発の安全神話は崩壊し多重大規模災害となった。

そして、死者は15,882人、重軽傷者は6,142人、行方不明者は2,668人、また平成25年3月11日時点で「震災関連死」は2,601人以上とされ、多くの尊い命と財産が失われ、また避難者は47万人にもものぼった。

その中で、岩手県釜石市の小中学生はほぼ全員が助かり、教訓を基にした、常日頃からの防災教育が効を奏したとの報道は記憶に新しい。

その後2年経ったが、復興庁資料では31万5千人が未だに避難生活を送っており、復興の遅れを痛感する。

気象庁によると、東海地震、東南海地震、南海地震、首都直下地震も切迫しているとのことであり、透析医療における東日本大震災から得た教訓を後世に残す意義は極めて大きい。

また、公益社団法人日本臨床工学技士会では、平成25年度から、透析医療を中心とした災害支援要員の育成を目的として「災害対策研修会」を開催するなど、具体的な災害対策事業を推進しているところである。

最後に、一刻も早い復興を祈念するとともに、本報告書が30万人の透析者を抱える透析医療における今後の防災対策に大きく寄与するものと確信する。

公益社団法人日本臨床工学技士会

会長 川崎 忠行

(前田記念腎研究所茂原クリニック)